

# NSK

## 日本精工株式会社

### 2023年3月期 1Q決算説明会



Change & Go Beyond

2022年8月3日

本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しています。  
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの  
一定の前提に基づいて作成しています。従って、実際の業績は、様々な要因により  
業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

皆さま こんにちは お忙しい中お時間をいただきありがとうございます。  
2023年3月期第1四半期の決算内容についてご報告いたします。

1ページ目をご覧ください。

## 事業環境

- 中国ゼロコロナ政策による経済活動制限
- ウクライナ情勢の影響長期化
- 鋼材・海上運賃・電力等インフレ進行
- 為替相場ではさらなる円安進行
- 産業機械：工作機械、半導体製造装置向けなど需要は高水準を維持
- 自動車：サプライチェーン問題、中国ゼロコロナ政策の影響は想定以上

## 実績サマリー

(億円)	FY21	FY22	YoY		FY22予想
	1Q実績	1Q実績	増減額	(為替影響) 伸び率	5月時点
売上高	2,135	2,194	+59	(+151) +2.8%	9,400
セグメント利益 ※ (対売上高率)	91 (4.3%)	49 (2.2%)	-43	(+36) -46.7%	405 (4.3%)
営業利益 (営業利益率)	90 (4.2%)	45 (2.1%)	-45	(+36) -49.6%	400 (4.3%)
税引前利益	93	45	-48	- -51.4%	400
当期利益 (親会社所有者帰属)	47	13	-34	- -72.0%	270

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

当第1四半期実績のサマリーです。事業環境は、中国ゼロコロナ政策による経済活動の制限に加えて、ウクライナ情勢の影響が長期化しました。それから、鋼材や海上運賃、電力等のインフレが引き続き進行しました。一方、為替相場では円安が進行しました。

このような環境下、当社の産業機械事業においては、工作機械、半導体製造装置向けなどの需要は引き続き高水準を維持しました。

一方、自動車事業では、サプライチェーン問題に加えて、中国ゼロコロナ政策の影響が中国国内にとどまらず他の国にも波及し、想定以上の影響がありました。

これらを受けた結果、2023年3月期第1四半期の当社の業績は、売上高は2,194億円、営業利益は45億円、営業利益率は2.1%、親会社所有者に帰属する当期利益は13億円となりました。対前年同期比で売上高が59億円の増収、営業利益が45億円の減益となっています。

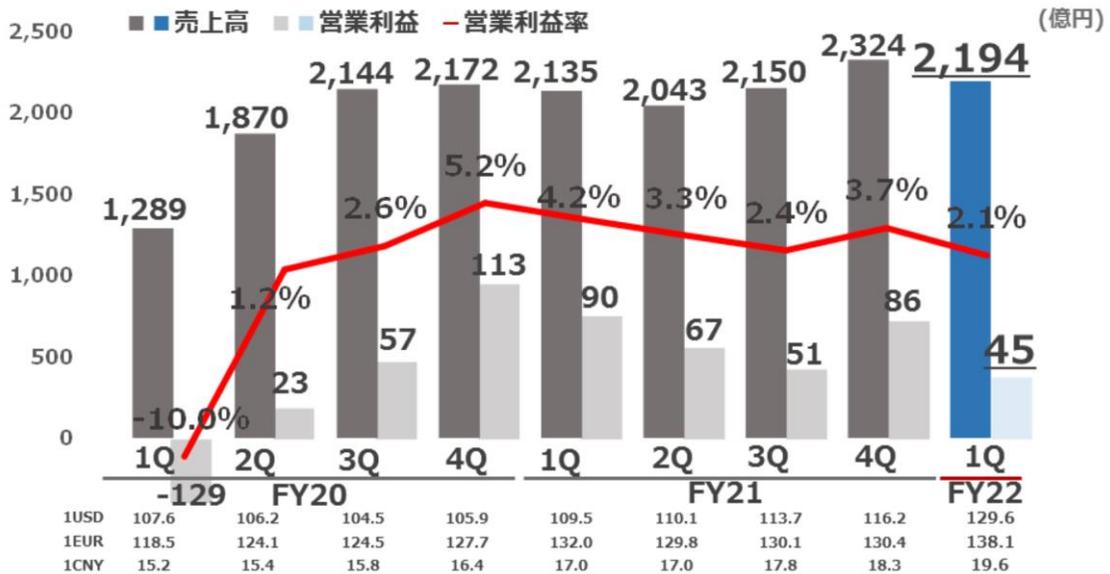
なお、円安進行による為替の影響があり、売上高では151億円の増収効果がありましたので、実質は減収減益だったということになります。

また、当第1四半期実績が当初計画に対してどうだったかということでは、当初計画にも中国ゼロコロナ政策の影響を織り込んでいました。ただ、その影響が中国以外にも広がったことで自動車は若干マイナスでしたが、産機は好調に推移したため全体としては想定内の範囲内の運営ができたと考えています。

続いて2ページ目をご覧ください。

## 2023年3月期 1Q実績サマリー②

MOTION & CONTROL  
**NSK**



● FY21 4Qに対し減収減益 売上高 -130億円 営業利益 -41億円  
(為替影響 売上高 +106億円 営業利益 +24億円)

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

2

こちらは、四半期別の売上高、営業利益、営業利益率を並べたものになります。

左端がFY20の第1四半期、右端が当第1四半期の実績です。

ここでご確認いただきたいことは、前年度の第4四半期と当第1四半期の比較です。

売上高では130億円、営業利益では41億円それぞれマイナスとなりました。

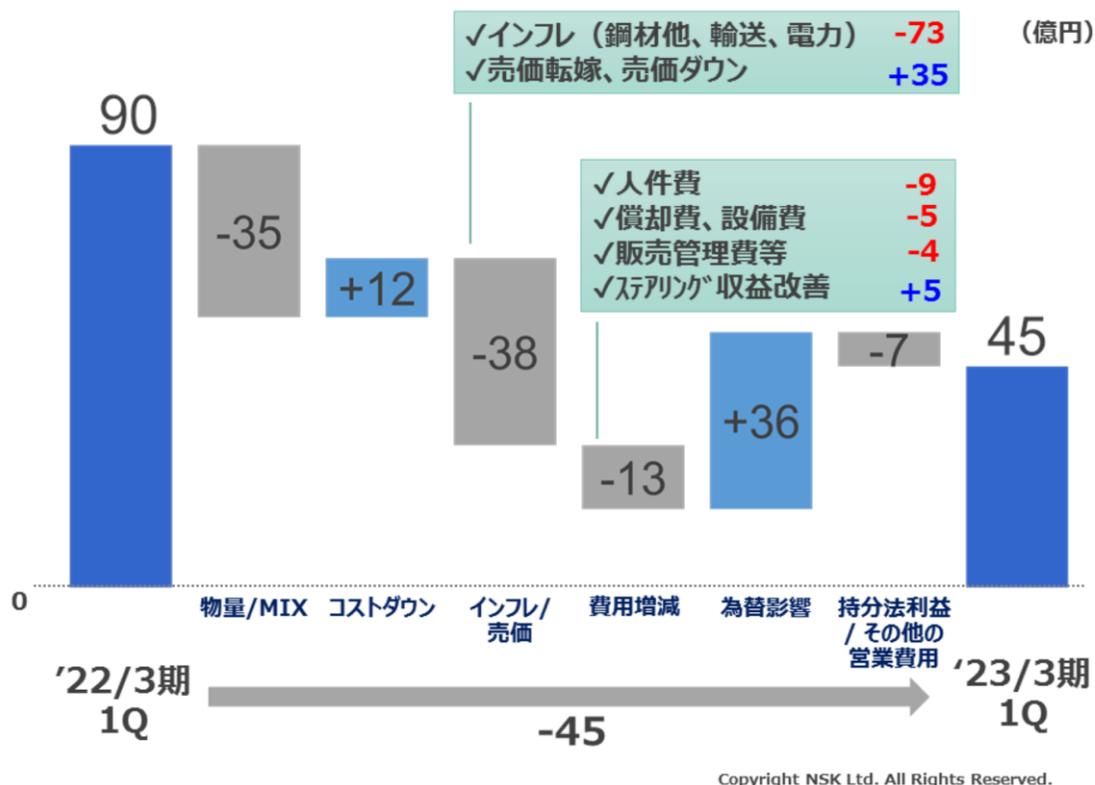
ここでも為替の影響があり、売上高で106億円、営業利益で24億円とそれぞれプラスの効果がありましたので、実質の売上高は約240億円の減収、利益は60億円を超える減益でした。

また、前年度の第4四半期にはロシア・ウクライナ関係の引当金計上など合計で30億円強の一過性費用を計上しましたので、実質的には約100億円の減益でした。

この中身としては、物量減の影響で約90億円のマイナス、その他は人件費のベースアップなど経費の増加ということになります。

続きまして、3ページをご覧ください。

# 営業利益 増減内訳 ('22/3期1Q ⇒ '23/3期1Q)



営業利益の対前年同期比較になります。

左端に昨年度の第1四半期の営業利益90億円、右端に当第1四半期の営業利益45億円をグラフで示しています。

まずは、左からご説明しますが、物量・MIXでのマイナスが35億円です。

売上高は対前年同期比でプラス59億円でしたが、為替の影響と売価の値上げ影響を除く実質では、約130億円のマイナスとなります。この減収の影響に加えて、産機と自動車の構成で産機の比率が高まったMixの影響も合わせて35億円の減益となりました。

その隣、コストダウン活動の効果が12億円プラスに効きました。

次に、インフレと売価転嫁の状況ですが、鋼材・海上運賃・電力のコストが上がっており、その影響が73億円でした。それを売価転嫁で35億円跳ね返しましたが、ネットで38億円コストアップが残ったということになります。なお、売価転嫁は第2四半期と第4四半期がメインになるため第1四半期の進捗は予定どおりと考えています。

費用増減はベースアップを中心とした人件費の増加などです。ステアリング事業の収益改善はプラス5億円となりますが、主に減損損失による償却費負担減少となり、拠点再編等による効果は今後出てくると考えています。

これらに、為替による増益効果を加えて当第1四半期の営業利益は45億円となりました。

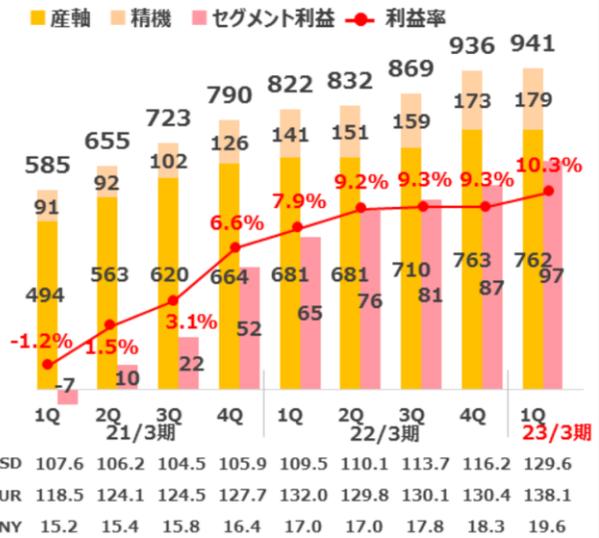
続いて事業別の内容となります。

# 産業機械事業

MOTION & CONTROL  
**NSK**

(億円)

	22/3期 1Q実績	23/3期 1Q実績	YoY 増減額 (為替影響)	YoY 伸び率
売上高	822	941	+119 (+67)	+14.5%
産業機械軸受	681	762	+81	+11.9%
精機製品	141	179	+38	+27.1%
セグメント利益	65	97	+32	+48.4%
(対売上高率)	(7.9%)	(10.3%)		
換算レート1USD	109.5	129.6	+20.1	+18.3%
" 1EUR	132.0	138.1	+6.2	+4.7%
" 1CNY	17.0	19.6	+2.6	+15.4%



## ● 中国ゼロコロナ政策の影響あるも増収増益を継続 利益率は10%をマーク

- ・工作機械、半導体製造装置向けの需要は高水準を維持
- ・E&E : 中国ゼロコロナ政策の影響を受け減収
- ・AM : 米州向けを中心に増収

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

4

まず産業機械事業です。

売上高は941億円、セグメント利益は97億円でした。

右側にグラフがありますが、売上高、利益共に右肩上がりになっています。

当第1四半期は中国のゼロコロナ政策の影響があったものの、利益率は2桁、10.3%に届きました。

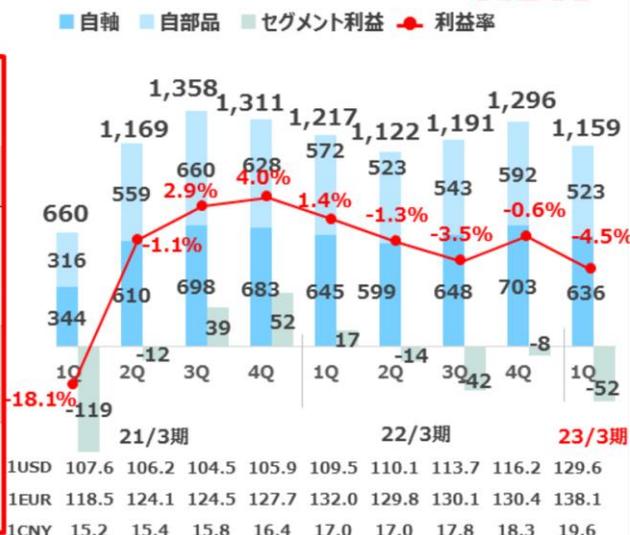
セクター別では、工作機械、半導体設備装置向けの需要は高水準を維持しました。一方E&Eは、小型モーター関係向けで中国ゼロコロナ政策の影響を受けて中国を中心に減収となりました。また、アフターマーケット向けに品物を回す施策を取ったこともあり、北米、日本、欧州でアフターマーケットは売上高が増加しました。

続いて自動車事業になります。5ページをご覧ください。

# 自動車事業

(億円)

	22/3期 1Q実績	23/3期 1Q実績	YoY 増減額 (為替影響)	YoY 伸び率
売上高	1,217	1,159	-58 (+81)	-4.8%
自動車軸受	645	636	-10	-1.5%
自動車部品	572	523	-48	-8.5%
セグメント利益	17	-52	-69	-
(対売上高率)	(1.4%)	(-4.5%)		
換算レート1USD	109.5	129.6	+20.1	+18.3%
" 1EUR	132.0	138.1	+6.2	+4.7%
" 1CNY	17.0	19.6	+2.6	+15.4%



- グローバル自動車生産台数 1Q実績 17M台 ※当社調べ (YoY -11%)
- 中国ゼロコロナ政策、ウクライナ情勢、サプライチェーン問題の長期化、インフレによるコスト増でYoY、QoQともに減収減益 営業赤字が継続

次に自動車事業です。

自動車事業の当第1四半期の売上高は1,159億円、セグメント利益はマイナス52億円となりました。

右側にグラフがありますが、遺憾ながら赤字が継続しています。

グローバル自動車生産台数は中国のロックダウン影響があり、前年同期比で約11%減少したと考えています。その影響を大きく受け、当社の売上高も実質ベースでは同程度のマイナスとなりました。加えて、サプライチェーン問題の長期化やインフレによるコスト増もあり、赤字が継続した、ということです。

ご説明の最後になりますが、6ページをご覧ください。

### ✓ 5月10日公表の業績予想および配当計画は据え置き

≫ 売上高9,400億円、営業利益400億円 ≫ 配当金30円/株

### ✓ 想定されるリスク

1. サプライチェーン混乱の長期化
2. 世界経済の減速
3. 予想を上回るインフレ

### ✓ 経営課題の推進

1. さらなるインフレを想定した追加の売価交渉
2. 在庫圧縮と生産体制の機敏・迅速なコントロール
3. 産業機械事業：供給体制強化と生産性向上を推進
4. 自動車事業：ステアリング事業の構造改革推進
5. DXに向けたデジタル人材の育成プログラムをスタート

2023年3月期のリスクと経営課題です。

まず、業績予想ですが、為替の状況、経済環境、事業環境等は不透明感を増していますが、第1四半期がほぼ計画どおりだったことも踏まえて、5月10日に公表しました数字は据え置くことと致しました。

想定されるリスクとしては、サプライチェーン混乱の長期化、世界経済の減速、さらに、予想以上のインフレです。

インフレに対しては追加の売価交渉を行っていき、世界経済の減速に対しては在庫の圧縮、生産体制の機敏・迅速なコントロールをしていきたいと考えています。

事業別では、産業機械事業は中期経営計画で能力の増強、売上拡大を狙っていますのでそれに向けて供給体制の強化と生産性の向上を推進していきます。

自動車事業においては、何といてもステアリング事業の構造改革の推進です。

また、中計の施策の一つでありますDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に向けてデジタル人材の育成プログラムをスタートしています。

新中期経営計画で目指しています「[変わる 超える]で新しい姿の1兆円企業へ」に向けて施策を推進、加速させてまいります。

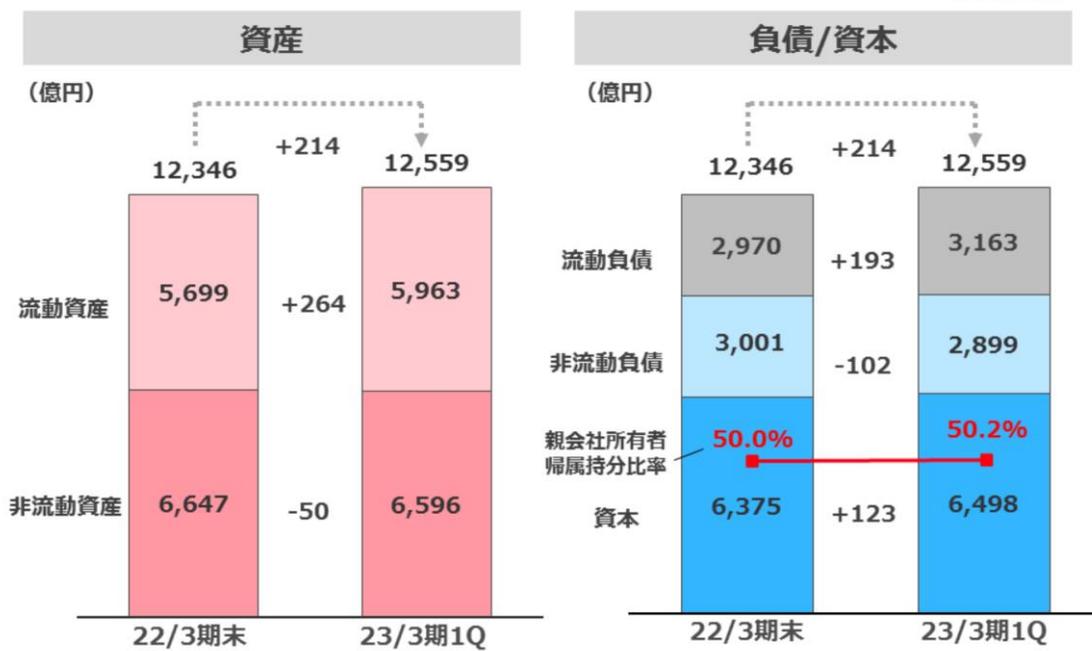
# 補足. 事業セグメント別業績

(億円)		22/3期	23/3期	YoY		23/3期 予想		
		1Q	1Q	増減額	伸び率	前半	後半	通期
合計	売上高	2,135	2,194	+59	+2.8%	4,500	4,900	9,400
	セグメント利益	91	49	-43	-46.7%	115	290	405
	(対売上高率)	(4.3%)	(2.2%)			(2.6%)	(5.9%)	(4.3%)
	営業利益	90	45	-45	-49.6%	110	290	400
	(営業利益率)	(4.2%)	(2.1%)			(2.4%)	(5.9%)	(4.3%)
産業機械 事業	売上高	822	941	+119	+14.5%	1,815	1,985	3,800
	産業機械軸受	681	762	+81	+11.9%	1,470	1,610	3,080
	精機製品	141	179	+38	+27.1%	345	375	720
	セグメント利益	65	97	+32	+48.4%	155	225	380
	(対売上高率)	(7.9%)	(10.3%)			(8.5%)	(11.3%)	(10.0%)
自動車 事業	売上高	1,217	1,159	-58	-4.8%	2,485	2,725	5,210
	自動車軸受	645	636	-10	-1.5%	1,385	1,565	2,950
	自動車部品	572	523	-48	-8.5%	1,100	1,160	2,260
	セグメント利益	17	-52	-69	-	-50	50	0
	(対売上高率)	(1.4%)	(-4.5%)			(-2.0%)	(1.8%)	(0.0%)
その他	売上高	152	159	+7	+4.9%	340	345	685
	営業利益	9	3	-5	-60.2%	10	15	25
	(対売上高率)	(5.7%)	(2.2%)			(2.9%)	(4.3%)	(3.6%)
売上高消去		-56	-65	-9	-	-140	-155	-295
その他の営業損益/調整額		-1	-3	-2	-	-5	-	-5

## 補足. 顧客地域別売上高

(億円)	22/3期	23/3期	YoY	
	1Q	1Q	増減額	伸び率
売上高	2,135	2,194	+59	+2.8%
日本	802	741	-61	-7.6%
海外合計	1,332	1,453	+120	+9.0%
(海外比率)	(62.4%)	(66.2%)		
米州	306	375	+69	+22.5%
欧州	277	306	+29	+10.5%
中国	441	419	-22	-5.1%
その他アジア	308	352	+45	+14.5%
換算レート				
1USD	109.5	129.6	+20.1	+18.3%
1EUR	132.0	138.1	+6.2	+4.7%
1CNY	17.0	19.6	+2.6	+15.4%

# 補足. 財政状態

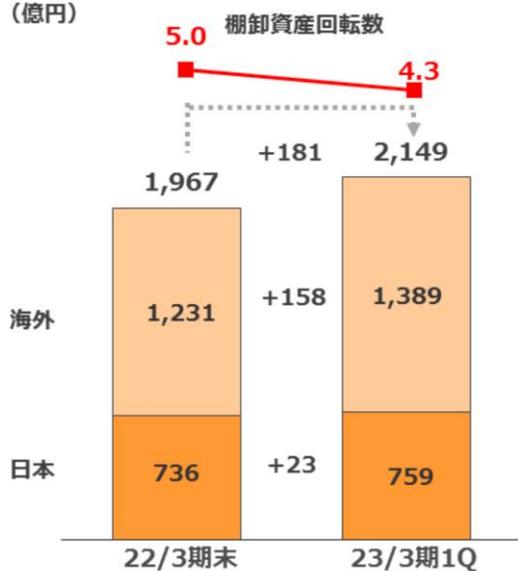


換算レート	22/3期末	23/3期1Q末
1USD	122.4	136.7
1EUR	136.8	142.7
1CNY	19.3	20.4

# 補足. 棚卸資産/有利子負債

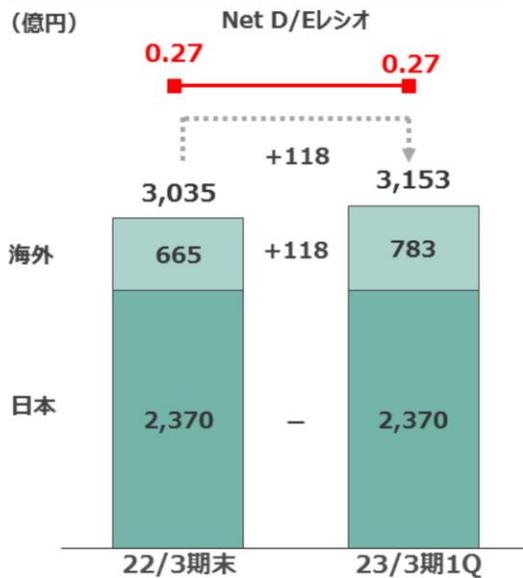
## 棚卸資産

(億円)



## 有利子負債

(億円)



換算レート	22/3期末	23/3期1Q末
1USD	122.4	136.7
1EUR	136.8	142.7
1CNY	19.3	20.4

# 補足. 設備投資額/減価償却費/研究開発費



(億円)	22/3期		23/3期	
	通期実績	1Q実績	通期予想	
設備投資額	523	92	700	
設備投資額 (リース除く)	445	77	700	
減価償却費	566	143	570	
減価償却費 (リース除く)	518	130	520	
研究開発費 (制度決算ベース)	192	45	200	
(参考) 技術関連費用	308	74	320	

MOTION & CONTROL™

**NSK**

## NSKの企業理念

NSKは、MOTION & CONTROL™を通じ、  
円滑で安全な社会に貢献し、  
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、  
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

## NSKビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる明日を実現するための、  
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、  
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.